

札幌市自立支援協議会における 課題整理の取組状況

今までの課題整理の試み

平成18年10月設置から平成19年 委託相談支援事業所の第三者評価、ガイドブック作成

平成20年 先行して2区に地域部会を設置【地域の課題は地域で】

平成21年 次に3区に地域部会を設置【地域の課題は地域で】

平成22年 残り5区に地域部会を設置【地域の課題は地域で】
地域部会の代表者が集まり課題を抽出する
「地域部会調整会議」を開始

ここで一度、市全体での
課題整理に足踏み…
しかし、課題抽出の
意識は徐々に…

平成23年 10区に地域部会が立ち上がったが、その成熟度に差があり、
地域部会調整会議も課題抽出・解決の機能を発揮できない

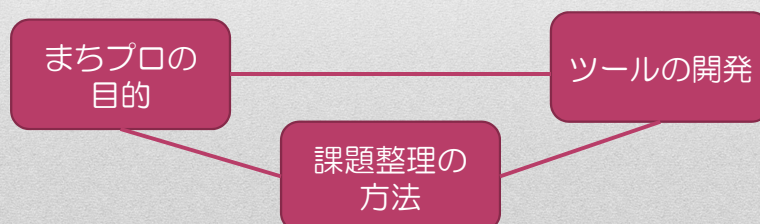
平成24年10月 まちの課題整理プロジェクトチーム発足、課題整理の仕組みを決定

平成25年 まちの課題から3つのテーマで協議会からの提言としてまとめる

平成26年 3つのテーマの取り組みを進め、新たに3つのテーマ別に課題整理中

まちの課題整理プロジェクトチームの創設

- 『地域部会調整会議』に代わる課題整理機能の検討
- 少ないメンバーで内容の深い検討と方向性を確認
- 協議会委員から自薦他薦でメンバーを募り7人でスタート



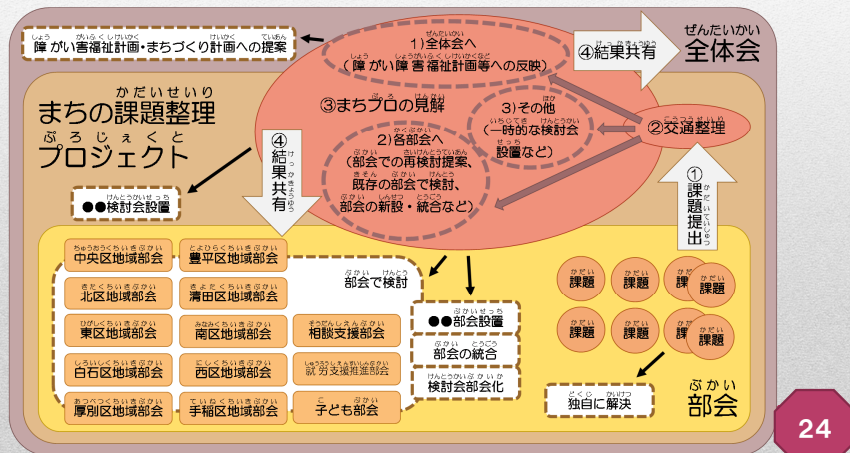
まちの課題整理プロジェクトチームの創設

まちプロの
目的

- (1) 提出された課題を整理・検証し、
解決へ向けた場へ交通整理する
- (2) 課題整理ビジョンの共有

まちの課題整理プロジェクトチームの創設

課題整理の方法



24

まちの課題整理プロジェクトチームの創設

ツールの開発

No.	事例、問題提起、面りごと	課題	まちの課題整理プロジェクトチームとしての見解	結果
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	まちの課題整理プロジェクトチームの見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	

- ◆ 簡単に地域の課題を出してもらうため、内容はシンプルに！
- ◆ 自分たちがまちプロに上げた課題がどうなったかわかるように！

24

まちの課題整理プロジェクトチームの創設

◆平成25年2月に『まちの課題整理学習会』を開催

- 課題整理ビジョンを協議会全体で共有
- まちプロの目的、課題整理の方法、ツールの紹介
- 取り組みが進んでいる部会の課題抽出手法を学ぶ

24

課題整理の本格始動

◆とにかく上から順番に課題整理を開始

- 課題一つ一つを検討し、情報を持ち寄り、役割分担して、交通整理の素案を作成
- 課題を提出した部会とも途中経過をやり取りし、現在の進捗状況を見えるように
⇒提出した部会へのフィードバックを意識

25

課題整理の本格始動

◆ 3つのテーマで課題整理をまとめることに

(1) ヘルパー技術向上のための研修会

(2) 教育と福祉の連携に係る課題検討会結果

(3) 市営住宅を含む住まいに関する課題整理

25

課題整理の本格始動

(1) ヘルパー技術向上のための研修会

【課題の概観】（課題話し番号1）

- ・ヘルパーの知識や技能について、発達障がい児の知識の不足、支援の量が著しく低くなっている。そもそもヘルパーを養成する研修の場が少ない、現場での人材不足が深刻、といった困りごとがある

【課題解決に向けた取り組み】

- ◆新たな事業や既存の研修会場の活用
- ・市全体として研修を行う必要性がある
- ・特に障がい児の発達を学ぶ方から学ぶ機会が少ない
- ・各地域部会において居宅介護事業所等が働き、居宅部会を設け、研修会の開催
- ・これからヘルパーを担う学生等に対する保護者学習、学習イベント
- ◆制度の拡充
- ・ヘルパーの研修地位の向上、延滞改善
- ・事業所の自主的な研修に補助が出る仕組み

【現在の取り組み状況】
（東区地域部会が担当）

- ★今年9月にヘルパー人材確保のシンポジウム開催
同時に、ヘルパーの仕事の魅力を紹介するDVDを作成
- ★3月にはヘルパーのスキルアップ研修第1回を開催予定
年間を通して体系的にスキルアップが図れる研修を検討する
- ★障がい福祉課も注目し、今年ヘルパーの魅力を伝える説明会を実施予定
次年度以降にサービススキルアップ研修開催ための予算を要求中

25

課題整理の本格始動

(2) 教育と福祉の連携に係る課題検討会結果

【課題の概観】（課題話し番号5, 9, 11, 16, 19）

- ・養護学校の障がい児に放課後等デイサービスに送りたいが、養護は任意で送迎できない、また、送迎をしている事業所が限られており、放課後等デイサービスも送迎できない
- ・移動困難者の送迎が課題となっており、また地下鉄沿線以外の場所への移動が不便
- ・障がい児の送迎に関して、移動の介助が可能な乗客、家族等が介助できない、乗客の支援の充実の必要性

【課題の概観】（課題話し番号11）

- ・学校の移動などを支援してくれるボランティアを募集している。学校でも探してくれたいが見つからない

【課題解決に向けた取り組み】

- ◆新たな事業や既存の研修会場の活用
- ・発達障がい児の知識や技能について、発達障がい児の知識の不足、支援の量が著しく低くなっている。そもそもヘルパーを養成する研修の場が少ない、現場での人材不足が深刻、といった困りごとがある
- ◆制度の拡充
- ・ヘルパーの研修地位の向上、延滞改善
- ・事業所の自主的な研修に補助が出る仕組み

【課題解決に向けた取り組み】

- ◆新たな事業や既存の研修会場の活用
- ・発達障がい児の知識や技能について、発達障がい児の知識の不足、支援の量が著しく低くなっている。そもそもヘルパーを養成する研修の場が少ない、現場での人材不足が深刻、といった困りごとがある
- ◆制度の拡充
- ・ヘルパーの研修地位の向上、延滞改善
- ・事業所の自主的な研修に補助が出る仕組み

【現在の取り組み状況】
（子ども部会が担当）

- ★11月18日に平成26年度第1回として課題検討会を再開
メンバーの幅を広げて、言い放しだけではなく、実効性のある検討を
2月10日に教育・福祉・医療の連携に向けた実践報告とフォーラムを開催

25

課題整理の本格始動

(3) 市営住宅を含む住まいに関する課題整理

【課題の概観】（課題話し番号3, 6, 29）

- ・タリニオネ等、障がいのある方が住むところが少ない、また、空き物件の情報がつかず居るできない
- ・障がいのある方のニーズ等に関する支援において、発達障がい児のニーズにすると意図（賃貸住宅）の契約が難しくなる、保証書の審査が通らない（通りにくい）
- ・札幌市営住宅（前第1期）に規定する賃貸収入、契約収入、借主収入、借主収入から返済しているのは大きな問題である

【課題解決に向けた取り組み】

- ◆新たな事業や既存の研修会場の活用
- ・各地域部会に住まいに関する研修会や検討を行う
- ・各地域部会から住まいの課題に関するニーズを収集し、住まいの確保の研修の実施や発達障がい児の知識や技能について、発達障がい児の知識の不足、支援の量が著しく低くなっている。そもそもヘルパーを養成する研修の場が少ない、現場での人材不足が深刻、といった困りごとがある
- ◆制度の拡充
- ・ヘルパーの研修地位の向上、延滞改善
- ・事業所の自主的な研修に補助が出る仕組み

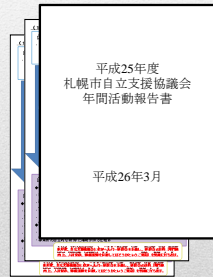
【現在の取り組み状況】
（中央区地域部会が担当）

- ★今年9月に市住宅課を招いて市営住宅の勉強会を開催
- ★12月に「住まい」をテーマに同様に検討している他の地域部会と一緒に、「住まい」課題の現状の取り組みについて情報交換
- ※市営住宅への単身入居は制度が改正し、今年から認められている

25

課題整理の本格始動

3つのテーマでまとめた「課題解決の方向性」を
自立支援協議会年間活動報告書と一緒に市へ『提言』



協議会として取り組んできた活動を知ってもらうとともに、
今後の施策に参考にしてもらうために報告・提言をする

25

課題整理のスピードアップ

◆メンバーの増員とカテゴリー分け

- 地域部会から4名のメンバーを増員
交通整理する人を増やすことにより、課題整理のスピードアップ。さらにまちプロの状況を地域で伝えてもらうことも目的に
- 同種の課題をテーマでカテゴリー分け
テーマ（移動、重複、行政の仕組み…）で分けることにより、複数課題を一体的に整理してスピードアップ

26

課題整理のスピードアップ

(4) 重複障がいに関する課題の整理に係る有期プロジェクトについて

【課題の現状】（課題抽出番号7、27、28、44、52、60）
・重複障がい（発達障害・知的障害）をもつ方の通所障がいやケアがなかなか見つからない
・医療型サービスは医療機関の対応ではないと判断され、なかなか受け入れてもらえない。また、福祉型サービスや介護サービスが得られないため、状態はそれに適ったサービスを受けられない状態が少なくない。
・重複・知的の重複障がいがある方が利用しづらいサービスが少なくない。また、利用性のある場所がない
・親と本人が在宅生活を維持できる福祉の活用が求められている
・医療型サービスや介護型サービスの利用が困難な状態だが、福祉型サービスが利用できない。
・在宅サービスが少なくない。省の施策の検討

【課題解決に向けた方向性】

- 有期プロジェクトを立ち上げ、課題を整理していく。その際には以下に注意する。
- ・重複障がいにも様々な種類があるため、考えが異なる課題から優先的に整理する
 - ・実施計画の内容が的外れにならないようよく確認して実施する
 - ・ネジクとなるのは医療機関とのつながり。この部分をどうするかを検討
 - ★ササエタクト～居宅介護事業所及び訪問介護サービス事業の実施
 - ★ササエタクト～現在の事業の精査・検討を行う。新規事業の検討も

【現在の取り組み状況】
（まちプロ直営）

★12月に医療、福祉、当事者等のメンバーが集まり、プロジェクトを発足
特に医療の現状把握と現在の事業の精査、新規事業の可能性を探る

26

課題整理のスピードアップ

(5) 移動に関する課題の整理について

【課題の現状】（課題抽出番号41、5、9、16、19、42、43、18、22、26、48、61、62）
・移動支援の対象者及び対象となる外出機会を拡大してほしい
（通学での利用、身体障害者手帳の持ちは対象者が限定されているなど）
・通所に利用できるサービスが少なくない
・移動困難者の通学・通勤・通所が困難ではない。送迎付き事業が増えるような施策が必要
・移動支援の通学利用に対応してくれる事業所が少ない
・冬季における通学での移動について、送迎サービスでの移動が困難な状況がある
・高齢者・障害者・子ども等の移動、冬の降雪、市民への避難
・電動車いすでの冬季間における外出支援
・移動支援の対象者は、外出の際に必ず身体介護が必要となることから、身体介護・無
という基準は必要ではないのか。

【課題解決に向けた方向性】

- ◆障がい福祉課から移動支援の実情等情報提供を受け、既存事業の検証を含めて、検討を続ける（第22回全体会で協議会有志による検討の場を作ることは提案済）
- ◆「まちプロ」の課題整理プロジェクトチームとして、議論を続けてきたが、課題が複雑多岐にわたるため、新規事業の可能性も含めて、大学等専門機関への研究をお願いする可能性も探る。

【現在の取り組み状況】
（まちプロ直営）

★まずは移動支援を中心に現状のサービス実施状況等を提供してもらう
それを踏まえて、どのように課題整理を進めるか再度検討する

26

課題整理のスピードアップ

まちの課題整理プロジェクトで検討している課題について、『さっぽろ障がい者プラン』の一部改訂に**反映**

No.	事例、課題整理、策に込	課題	まちの課題整理プロジェクトチームとしての役割	結果
1	道が所定通りではないのか？ ○○○○○ ○○○という事例	○○○という課題がある ○○○が重要	道が 何を いつ どこかに	まちの課題整理プロジェクトチームは意見を交わし、道に課題を反映させる。また、道の課題を反映させる。また、道の課題を反映させる。また、道の課題を反映させる。

提案

さっぽろ障がい者プラン
一部改訂

協議会の委員を障がい福祉計画の検討会議メンバーとして送り出し、まちの課題整理プロジェクトで交通整理している課題の内容を中心に、一部改訂に取り入れてもらうため、提案

まちの課題整理プロジェクトのこれまで

【平成24年度】

まちの課題整理プロジェクトチームの発足

⇒課題整理の目的、方法を決定し、全体で共有

【平成25年度】

試行錯誤しながら課題整理を進める

⇒「地域の課題」から「市への提言」としてまとめる

【平成26年度】

メンバー増と手法の工夫

⇒課題整理のスピードアップと施策提案へ